

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立三瀬中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和5年4月18日（火）

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

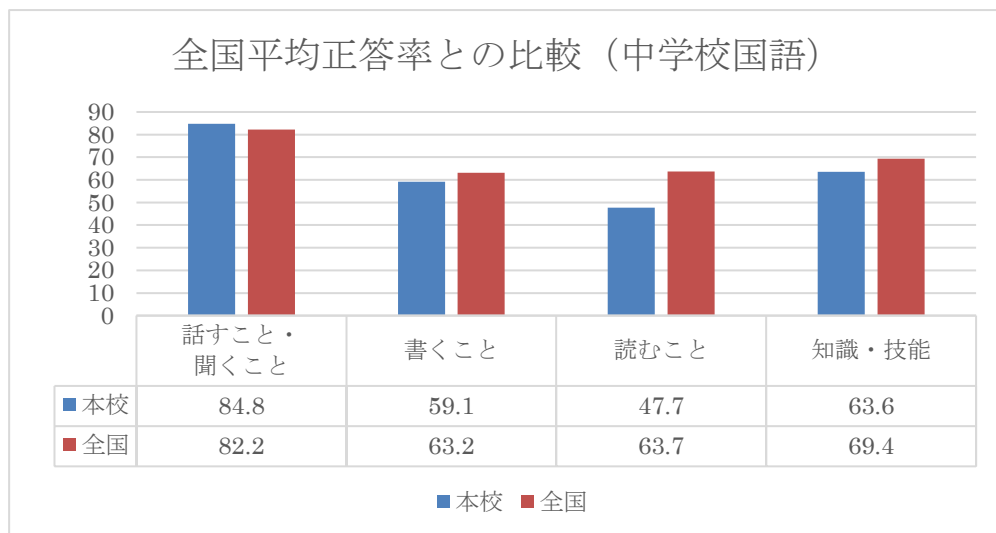
生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、学習時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語（中学校）に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご御覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

「話すこと・聞くこと」は、全国平均正答率を上回っていますが、「書くこと」、「読むこと」、「知識・技能」については下回っています。また、「書くこと」について、無回答の生徒が一定数いました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、話の内容を捉え、知りたい情報と関連付けて「話すこと」と、心情を表す語句の意味を問う問題の正答率は高く、全国平均を上回っています。

一方で、意見と根拠など、情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題と、観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる問題については、正答率が全国平均より低くなっています。情報の扱い方に関する事項では、「原因と結果」、「意見と根拠」、「具体と抽象」等の基本的な情報と情報との関係について理解し、実際に話したり聞いたり、書いたり読んだりする場面で活用できるよう学習していく必要があります。

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題や、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題では、無回答率が全国平均より高くなっています。自分の考えが、確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認し、考えを支える根拠として示す事例等を検討しながら、考えと事例等との関係を明確にして記述できるようになるための学習が必要です。

(3) 学力向上のための取り組み

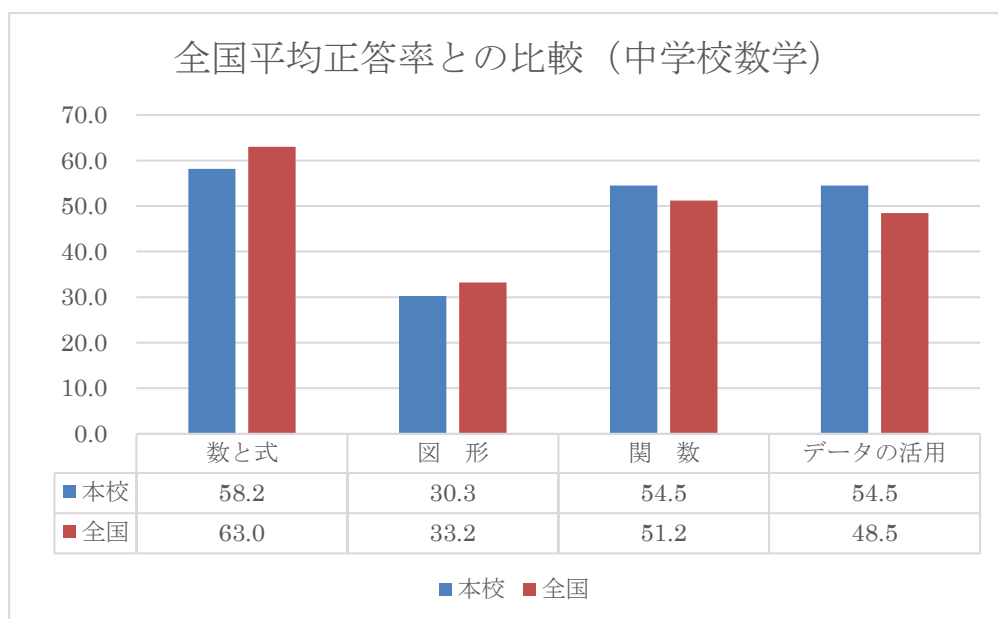
【学校では】

- 生徒が主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、生徒同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、事例等を示し根拠を明確にししながら自分の考えを書く等の言語活動を増やします。
- 習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます。

【ご家庭では】

- 教科書に掲載されている教材を基本とし、例えば、教科書にある作品などを再読して感想を書いたり、教科書などにある語句の意味を調べたり漢字を練習したり、日常生活の中で関心のある事柄について意見文を書いたりすることを勧めましょう。
- 読書を推奨しましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな分野の本や新聞、記事等を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め、知識の幅を広げることが期待できます。また、たくさん読むことだけでなく、その内容への理解を深めることが大切です。親子でお互いに感想を伝え合ったり、その根拠を述べたりする時間を作ってみてください。

2 数 学



（1）結果

全体的には、全国の平均正答率とほぼ同等の結果でした。「数学的な見方・考え方」に係る問題の正答率は、全国平均を大きく上回っていますが、知識・技能に係る問題の正答率は下回っています。

（2）成果と課題

今回の調査では、「A 数と式」の領域の、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうか、また、「C 関数」の領域の、グラフを事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題の正答率が、全国平均を大きく上回っています。また、「D データの活用」の領域では、四分位範囲の意味を理解しているか、また、複数の集団のデータ分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるかどうかをみる問題の正答率は上回っています。

しかし、「A 数と式」の自然数の意味を理解しているかどうかをみる問題や、数と数式の乗法を解く問題、結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見いだして説明することができるかどうかを問う問題の正答率は、全国平均を下回っています。また、「B 図形」の領域では、いずれも正答率が低くなっています。特に、空間における平面が同一直線上にない3点で決定されていることを理解しているかどうかをみる問題や、ある事柄が成り立つことを、構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題の正答率が低く、後者については無回答率も高くなっています。

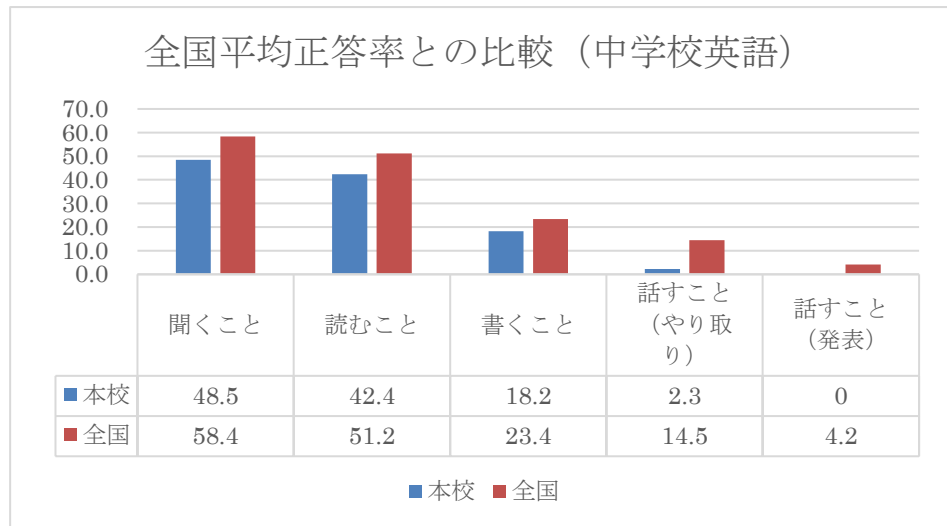
（3）学力向上のための取り組み

【学校では】

- 継続して、基礎的・基本的な計算技能を身に付けられるよう指導していきます。また、事柄が成り立つことの説明を振り返り、新たに成り立ちそうな事柄を予想する活動や、図形の性質を理論的に考察し、表現する活動を取り入れます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上を目指します。
- 授業における学習活動や課題を通して、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見つけ、補充指導を行います。

【ご家庭では】

- お子さんの宿題の様子やテスト内容をご覧になり、良くできているところや改善点について自覚できるよう、賞賛や助言など、適切な言葉かけをしていただきたいと思います。
- 理解できない問題に対しても、自分なりの答えが見つかるまでとことん考え抜くことが大切です。粘り強く学習に取り組むよう、励ましの言葉をかけてください。



(1) 結果

全国的に、「書くこと」と「話すこと（やり取り）（話すこと）」に課題があることが分かりました。本校の平均正答率は、全ての領域で全国平均を下回っています。特に、「話すこと（やり取り・発表）」の対全国比が低くなっています。

(2) 成果と課題

「聞くこと」：短文や短い対話を聞いて、その内容を適切に表している絵を選択する問題の正答率は、全国平均を上回るかほぼ同じ程度です。一方で、英語の情報を聞き取り、その内容を表す英文を読んで答える問題の正答率は低くなっています。話されること全てを聞き取ろうとするのではなく、自分の置かれた状況などから、何が自分にとって必要な情報かを判断した上で聞き取る技能を身に付けていく必要があります。

「読むこと」：状況を描写するまとまりのある英文を読み、その内容を表すグラフを選択する[知識・技能]の問題の正答率は、16.7ポイント上回っています。一方で、事実と考えを区別して読むことや、日常的な話題に関する長文の概要を捉えることについては、苦手としている生徒が多いことが分かりました。長文の概要を捉えるためには、段落内の文と文との関係を読み取りながら、各段落の主な内容を捉えることができるようになることが必要です。

「書くこと」：基本的な語や文法事項を理解して正確に英文を書くことに課題がありました。また、身近な話題について、考えをまとめて文章を書く力が身に付いていないことが分かりました。情報や自分の気持ちなどを正確に書く言語活動に、継続的に取り組む必要があります。

「話すこと」：速やかに正しく、自分の考えを述べるために必要な[知識・技能]、及び、[思考・判断・表現]の力が、共に身に付いていないことが分かりました。既習の表現等を活用しながら、知り得た情報や自分の考え、理由等を伝えたり、相手から聞き出したりする練習を、継続的に行う必要があります。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 生徒が授業を通して多くのインプットや英語の使用ができるよう、授業は基本的に英語で行います。また、学習内容に興味・関心をもたせられるよう、ICT機器を活用して背景知識を紹介したり、Rubric評価表やCan-Do listで達成目標を示したりします。授業での学びを定着させたり、深めたりするために、家庭でも授業内容に関連した課題に取り組みさせます。
- 実際のコミュニケーションの場面での英語の使用を意識し、読んだことについて話す活動や、聞いたり読んだりしたことについて書く活動など、複数の領域を統合した言語活動の充実を図ります。

【ご家庭では】

- 授業以外でも英語を使う機会を増やすことが、英語力の向上につながります。英語への関心が高まるような励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 英語学習のテレビ・ラジオ放送や英語学習用教材サイト等をご活用ください（文部科学省のホームページでもたくさん紹介されています）。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果 ※ 「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した生徒の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	72.7 %	78.6 %
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	36.4 %	34.7 %
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	63.6 %	54.8 %
自分にはよいところがあると思いますか。	27.3 %	37.2 %
将来の夢や目標を持っていますか。	27.3 %	39.4 %
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	54.5 %	71.7 %
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	72.7 %	80.3 %

朝食を食べていない生徒がいることや、就寝時間が不規則になっている生徒が多いことが分かりました。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要ですので、今後も家庭と学校で協力して、習慣化させたいと考えています。

自己肯定感や将来についての項目では、本校でも、全国的にも「当てはまる」と回答をした生徒が少ないことが分かりました。本校の生徒たちは、学習や学校行事、部活動等に熱心に取り組んでおり、その努力の過程や成長ぶりについて周囲から高い評価を言葉で受けていますが、自己肯定感の高揚には繋がっていないようです。継続して、自分のよさに気付かせ、自信をもたせることができるような働きかけをしていきます。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	0.0 %	15.3 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	0.0 %	10.3 %
「2時間以上、3時間より少ない」	9.1 %	23.4 %
「1時間以上、2時間より少ない」	45.5 %	32.1 %
「30分以上、1時間より少ない」	36.4 %	18.0 %
「30分より少ない」	0.0 %	9.9 %
「全くしない」	9.1 %	6.0 %

家庭学習については、常に自分で計画を立てて勉強しているという生徒がいないことが分かりました。また、勉強時間が1時間程度という生徒が一番多く、1時間未満の児童が3割以上おり、中には全く家庭学習をしていない生徒がいることが分かりました。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、家庭学習の習慣を身に付けさせたいと考え、曜日で教科を指定して、自学ノート（Jノート）に取り組ませています。また、各教科から授業に関連した課題にも取り組ませています。今後も、担任や教科担当が家庭学習の重要性や取り組み方について指導していきます。
- 基礎・基本の定着を目指し、始業前の時間に、デジタル教材を使ったドリル学習を行ったり（スキルタイム）、確認テスト（すくすくテスト）を行ったりしています。すくすくテスト後は、昼休みや放課後に個別の指導をしています。

【ご家庭では】

- 規則正しい生活と家庭学習習慣の定着は、極めて大切なことです。自分の生活について振り返りを行いながら、よりよい生活を送るよう励ましてください。少しでも向上が見られたときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。
- 「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや自主学習の説明を参考にして、自分で計画して学習できるように励ましていただきたいと思います。